



NO.

いちよ

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

結果は焦らず善因を積む

住職 平田真純

昔、履物が主に下駄や草履であった時代、鼻緒が切れると縁起が悪いという言い伝えがあったようです。しかし一方で、それは迷信で、実は厄払いであるともいわれていたそうです。

心が明るく前向きな時は、「いい厄払いをした」と納得するでしょうが、心が暗く沈んでいるときは、厄払いであるとは吹っ切れず、何か悪いことが起きるのではないかと、不安で仕方がなくなるかもしれません。

現代では下駄や草履を多く人はめったにいません。りましたが、たとえば参拝中、数珠じゆずのひもでも切れようものなら、同じような心持になるのではないでしょう。一瞬、不吉な予感を感じてしまうでしょうが、神仏を真剣にお参りしているのですから、それは厄払いに違いありません。きっと大きな災難を未然に防いでくださったのでしよう。

悩み事や心配事をもって祈願をすると、えてしてご利益という結果ばかり先走って求めがちになります。

結果ばかりを焦ると気持ちが前のめりになります。そうすると思ひ込みが強くなったり、細かいことに神経質になったりします。

道元どうげん禪師は、その著作「正法眼蔵しょうぼうげんぞう」に、有名な達磨だるま大師の「一華五葉を開き、結果自然じねんに成る」という句を引いています。

「この花のひらく時、ならびにその光輝こうきや形相すがたをまなぶがよい。この花の弁べんは五片である。五弁のひらくとき一つの花となるのである。∴自然に成るといふのは、因おきを修めれば果を感じるといふことである。どこにも通ずる因があつて、どこでも通ずる果があるのである。いやしくも私のない因果いんがを修して、私のない因果いんがを感じるのである。∴（増谷文雄訳 正法眼蔵）ものごとは、なるべくしてなるものでありましよう。そうはいっても、ときとして目の前のことにこだわりすぎてしまうのが私たちです。

日常、自分の力でやるべきことをやっとうえで、聖天様に祈るときは、無心で手を合わせる。これが仏様の説かれる「善因ぜんいん∥善い結果を導く善い因縁」なのかもしれません。

待乳山便り

浮世絵展〜待乳山 隅田川 山谷堀〜 開催中

九月十四日より開催されている浮世絵展ですが、今回も見応えのある内容で大変ご好評をいただいております。

今年十月六日まで開催いたしますので、どうぞ皆様お誘い合わせの上お越しください。

九月二十九日は浅草寺教化部の藤元裕二氏によるギャラリートークがございます。



詳しい解説を受けながら今回の展示を見る最後のチャンスとなりますので、ご興味のある方は是非お忘れのないようにお越し下さい。

深川さんぽのご案内

十月二十六日(土) 永代寺と深川不動尊をめぐるイベントを開催いたします。

永代寺では聖天様を参拝し、深川不動尊では護摩供法要、ご法話を賜ります。

昼食は深川めしをいただき、その後深川江戸資料館を見学いたします。

集合は門前仲町駅の赤い山門のある一番出口に午前十時、解散は清澄白河駅に午後三時半を予定しております。

参加希望の方はお早めにお申し込みください。

応募締切 十月二十日 参加費 五、〇〇〇円

※先月号のご案内で十月二十八日(日)と記載しておりましたが、正しくは十月二十六日(土)です。

ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げますとともに、ここに訂正をさせていただきます。



関口家 吉田家 結婚式

九月七日(土) 正午

当山僧侶の関口真允師と新婦の宍生さんの仏前結婚式が平田住職戒師の元、執り行われました。

天候に恵まれ結婚式日和の中、聖天様に見守られ無事結婚式は終了いたしました。

今後も変わらず当山の発展とご信徒のためにご活躍いただきたいと思っております。



十月御縁日大法要 行事紹介

歡喜講祈禱会

十月二十日(日) 午前十一時

講金 三、〇〇〇円

十月二十日、歡喜講祈禱会を執行いたします。

歡喜とは、神仏の功德を体験し、感じた時に起こる、身も心も喜びに満たされた状態を言い表す言葉です。

歡喜講では皆様の開運招福を祈願する大般若転読祈禱法要を行いまた聖天様からいただくご利益に感謝をいたします。



法要中には講にお申込された方のお名前を一人ひとり読み上げ、御芳名入りの歡喜講札とお供物をお授けいたします。

七五三参りの案内

当山では、七五三参りを予約にて承っております。本堂内陣におきまして、行者よりお加持を授かり、無病息災をご祈願いたします。

お申し込みの方には、お子様のお名前の入りましたお守りとお供物を授与いたします。特に土曜日曜はお申し込みが多い場合があります。

お早めに寺務所にてご予約下さい。

御志納金 五、〇〇〇円也

待乳山聖天 お月見の会 開催のお知らせ

十月十四日(祝) 午後五時 雨天決行

参加料 一、〇〇〇円

毎年恒例のお月見の会は今年満月の十月十四日に開催されます。

午後六時より本堂脇の天狗坂より、スカイツリーをバックに昇る満月に向かって月待法要(天台声明)を執り行います。

法要後には十八時半より重要無形文化財、竹本弥乃太夫丞の義太夫と望月太左衛師匠のお囃子と公演がございます。平田住職のギターとのお楽しみコラボも行われます。

秋の名月と音楽をお楽しみください。

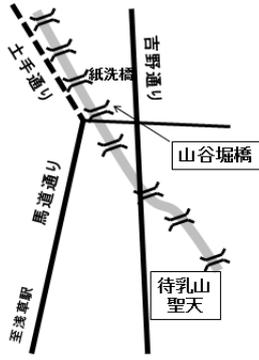


山谷堀の今昔④

浮世絵展はついに開催となりました。おかげさまでたいへんご好評を頂いております。先月に引き続き山谷堀についてお話をいたします。

前回の正法寺橋の次は五番目の橋である山谷堀橋となります。

山谷堀橋の親柱には「本橋、帝都復興事業トシテ新設シタルモノナリ一、起工 昭和四年五月一、竣功 昭和四年九月一、工費 壹萬九千四百圓」とあり、聖天橋と同様に比較的新しい橋です。工費は現在の物価に直すと、約五千万円ほどになります。現在の浅草駅から山谷



堀につながっている馬道通りは、ちょうど山谷堀橋の袂で土手通りとなり山谷堀公園と平行に上流へ進む道となります。この土手とは隅田



名所江戸百景 よし原日本堤

川の氾濫を防ぐために、江戸幕府によって築かれた堤防のことで、今戸橋から三ノ輪まで続いております。

幕府によって作られたことから、もしくは日本中の大名が分担して作られたことから「日本堤」という名前がつけられたと言う説があります。

その後この日本堤の西側に新吉原が移転し、遊客相手の茶屋が並ぶ見晴らしの良い街道となり、土手八丁と呼ばれておりました。

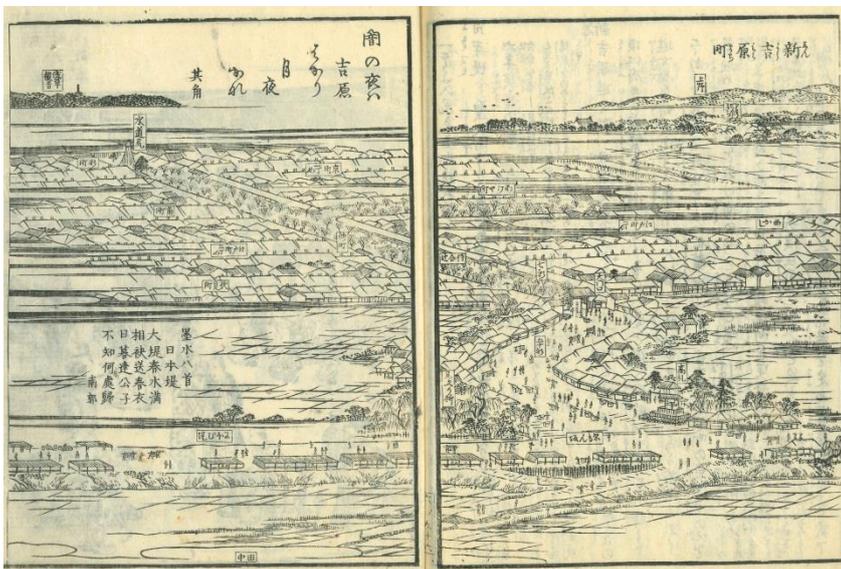
浮世絵や歌舞伎の題材にも取り入れられ、江戸の名所として賑わっていたようです。

その日本堤は関東大震災の四年後に取り壊され土手通りとなりましたが、堤防の名残から土手通りの道路は少し盛り上がりつつある箇所があります。

山谷堀橋の次は六番目の橋、紙洗橋です。このあたりでは浅草紙と呼ばれる再生紙の生産が盛んでした。

この浅草紙は古紙を細かく刻んで煮たものを、山谷堀の流れで洗って冷やし、漉いて乾かすとい

う工程で作られており、今で言うトイレトーパーなどに使われていました。この冷やす工程の間に職人たちは暇を持て余したため、遊郭を見物に行ったそうです。二時間ほどで次の工程が有るため、見るだけで帰ることから、買う気のない客のことを表す「冷やかしの語源となっております。



江戸名所図会 新吉原町
図の奥に新吉原遊廓、手前に日本堤が描かれている見晴らしのいい茶屋の並ぶ通りであったことがわかる

浮世絵展—待乳山・隅田川・山谷堀—
令和元年九月十四日〜十月六日 入場無料

十月行事予定

御縁日大法要

歡喜講祈祷会

十月二十日(日) 午前十一時 講金 三、〇〇〇円也

朝まいり会

十月一日〜七日 午前八時から八時半 会費 五〇〇円也

日曜勤行

十月十三日(日) 午前九時 参加費 無料

写経の会

十月十三日(日) 午前十時/午後一時 会費 五〇〇円也

お月見の会

十月十四日(祝) 午後五時〜 参加費 一、〇〇〇円也

坐禅の会

十月二十六日(土) 午後五時〜七時 定員三十名 参加費 五〇〇円也

深川さんぽ

十月二十六日(土) 参加費 五、〇〇〇円也

合同大般若法要

十月二十五日(金) 午前十一時 法要料 五、〇〇〇円也

十一月の行事 御縁日大法要

写経供養会

十一月十日(日) 午前十一時三十分 講金 一、五〇〇円也

昼講

十一月二十日(水) 午前十一時 講金 一、五〇〇円也

祈祷のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

当山ではこの浴油祈祷を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈祷期間をお伝え下さい。

またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

祈祷料

別座祈祷 壹万円(二週間)
浴油祈祷 三千五百円(二週間)
華水供 五百円(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えする

ことで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壹万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知らせになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。